様式 2

公共事業再評価調書（2回目 再々評価）

主管課： 河川課

1 事業概要	事業名 ： 我部祖河川 河川改修事業		前再評価年度：平成15年度
	事業種別 ： 総合流域防災事業	事業主体 ： 沖縄県	（ S56 ～ H25 ）
	事業箇所 ： 名護市	根拠法令 ： 河川法	事業期間 ： S56 ～ H29
	(4,315) 総事業費(百万円)： 5,285	（ 7/10 ） 費用内訳 ： 補助 9/10	(3,370) 事業量(m) ： 3,370
（整備目的）	多発する浸水被害を解消し、治水安全度の向上を目指す。また、環境に配慮した多自然川づくりを目指す。		
1-2 前再評価以降の計画変更	橋梁の基準改定に伴う全体事業費の見直し、及び予算確保が困難となったことにより事業期間の延伸を行った。		
2 再評価該当項目	■ ① 再評価後一定期間（5年）を経過 □ ② 事業の中止 □ ③ その他（ ）		
3 再評価に至った主な要因	□ ① 用地取得の困難 □ ② 調査・設計の困難 □ ③ 事業の拡大 ■ ④ 予算の確保 □ ⑤ 手続き・法令の問題 □ ⑥ 他事業との関係 □ ⑦ 整備効果の問題 ■ ⑧ 当初計画が長期間 □ ⑨その他（ ）		
（具体的理由）	当初事業期間が長期計画であること、また、予算の充分な確保ができず長期化している。		

4 事業の進捗状況（H20.3 時点）

項目	事業費（百万円）	整備（km）	用地取得（千㎡）		
計画	5,285	3.37	47.1		
実施済	3,596	2.12	36.6		
率	68 %	63 %	78 %		

4-2 前再評価以降の主な進捗：事業延長約250mの両岸護岸及びボトルネックとなる「我部祖河5号橋」を重点的に整備し、浸水被害の軽減に努めた。

5 事業効果の評価指標（検討年 整備期間+50年）（基準年 H20）（単位：百万円）

① 一般資産	99,782	① 建設費	5,285
② 農作物	9,615	② 維持管理費	1,712
③ 公共土木施設等	169,030		
④ 間接被害額	8,339		
便益(B)	286,766	費用(C)	6,997
⑤ 残存価値	39		
基準年換算（B）	137,820	基準年換算（C）	7,661

費用便益比（B／C）= 137,820 ／ 7,661 = 18.0

6 事業を巡る状況の変化（前再評価以降）

① 社会・経済 ： 河川事業費の縮小により予算確保が困難となり、効率的な事業進捗が図れない状況となっている。

② 地元・自治体 ： 集中豪雨等による浸水被害があることから、早期改修の要請がある。

③ 利害関係者 ： 用地買収が困難な地権者がいる。

7 事業の必要性・効率性

① 事業の必要性・緊急性・有効性など：
近年でも未整備区間においては、集中豪雨時には浸水被害が多発し、地元からは早期整備の要請もあることから、早期に治水断面を確保し浸水被害の軽減を図る。

② 事業の効率性（代替案等の可能性、コスト縮減）：
今後、未整備区間においては、現況河畔林や健全な現況護岸は保全しつつ、多自然川づくりと併せコスト縮減を念頭においた河川整備を実施し、事業の効率化を図る。

③ 事業効果の発現状況：
「いなだ橋」上流側の護岸整備及び「我部祖河5号橋」の改修により、我部祖河地区の被害が軽減された。

8 今後の対応方針・見通し

① 事業計画等 ： 「我部祖河5号橋」から上流部に位置する狭窄箇所を重点的に整備し、今後の五ヶ年で、本川と支川の喜知留川との合流部までを完成させ、平成29年度の事業完了を目指す。

② 対住民関係 ： 用地難航箇所は、自治会および地元自治体の協力を得て鋭意用地買収に努める。

③ 執行体制等 ： 現在の組織体制で特に問題なし。

9 評価：■ ① 事業継続（現計画） □ ② 事業継続（見直し） □ ③ 事業の中止

10 その他（前再評価での主な意見等）

・住民として、人命や財産を守る河川改修は大切だと思う。
・道路整備担当と連携して、水辺の風景を楽しむため、健康的に安全で歩ける連携的な設計を望む。